

活かす通信

2023年11月 (196号)

<http://npo-icas.com>

★★

巻頭言 元時事通信記者 篠田憲明

補選1勝1敗で遠のく衆院解散—岸田降ろしの動きも

★★

10月20日から12月13日までの55に日間にわたる臨時国会の幕が開き、23日に岸田文雄首相は所信表明演説を行ったが、その前日行われた衆参の2次補選では、衆院の徳島・高知合区選挙でマスコミ各票と共に、早い段階で野党統一候補の勝利報道をし、衆院の長崎4区でかろうじて勝利したものの、最後まで接戦だった。しかも両衆参選挙の投票率は20%に達しない歴史的低得票率だったにもかかわらず(自民、公明党ともに、低投票率では楽勝が常であった)である。これでは、今回のダブル選挙次第では衆院を解散しようとの目論見は大きく外れたばかりでなく、この結果は岸田首相の政権運営にも影響を与え、場合によっては、自民党内に「岸田降ろし」の動きが出て来るかもしれない。

この結果の前兆はあった。各社の内閣支持率がまた更に低下したのだ。朝日新聞29%、毎日25%、時事通信26.3%、共同通信32.3%はともかく、読売、産経など比較的高い数字が出るマスコミ支持率が、其々34%、35.6%といずれも4割未満の数字。これは2年前の岸田政権始まって以来なのだ。昨年末に起きた秘書官だった岸田首相の長男による不祥事や今夏の国会議員によるフランス旅行などへの批判があったわけではなくて、「女性閣僚の5人登用、旧統一教会への解散請求など善政をしているのに、国民生活の悪化が下落要因であるのは極めて衝撃的だ」(自民関係者)などと述べ、さらに「もはや小手先の人気取りでは支持率回復は望めない」(同)とショックを隠し切れない。

特徴的なのは、若者・女性の支持率が低く、高齢者・男性の支持率が高い。このまま解散になだれ込むのは「女性や若者が投票に行ったら、負けは確実であろう」との声が自民党内では圧倒的多数だ。さらには、「悪手」としてあげられるのが、「所得税減税」だ。23日の岸田首相の所信表明で期限付きであることがはっきりしたわけだが、期日直前に打ち出したことの評判悪い。言わば有権者に「選

挙対策である」ことが、見え見えで今回のダブル選挙の有権者は馬鹿にされたと言って良い。しかも、「昨年末に決定された防衛費増への財源を探していかなければならないのに、何故か所得税減税議論になるか順序が不明である。このことは自民党内でも批判が燻っている。この問題を契機に「岸田さんは何をしたいのか、見えすいた人気取りをしているだけの政治家」という印象を与えてしまった。幸い、来年秋の自民党総選挙で岸田氏に対抗する人材は茂木敏充幹事長、河野太郎デジタル行政改革担当相、高市早苗安全保障担当らの名前が挙がるが、皆党・内閣の執行部ばかり。また茂木氏以外は派閥の領袖ではなく、脅威にならない。それよりも、林芳夫前外相だ。衆院長崎4区では接戦だったが宏池会の選挙対策本部長として、ともかく勝利を実現させた。安定的な地盤を受け継いだ「世襲候補の金子容三氏」が負けたら、林氏は「派閥を任せられた緒戦で負けた」との言われ方をされたところだが、宏池会の出身で優しい風貌では、経済に強いとされ「以外に選挙の顔になるのでは」との声が出ている。
(憲)

★★

勝池レポート アジア資産運用アドバイザー 勝池和夫
「インドの不動産業の将来像」

★★

今回は、2023 年の 8 月にイギリスの不動産コンサルティング会社（ナイトフランク社）が、インドの不動産協会の協力で発表した「Vision 2047」という調査レポートから、インド経済と不動産市場の将来像を見てみます。

1. インド経済の将来について

インドの GDP は 2022 年に 3.4 兆ドルでしたが、2047 年には 33~40 兆ドルになると予測しています。つまり、独立 100 周年までの 25 年間に、インド経済は年平均約 9~10%で成長し、その規模は約 10 倍にまで膨らむということです。その主な要因として、人口統計上の利点や、政府による製造業やインフラ分野の支援などが挙げられていますが、過去 25 年の年平均成長率が 6%であったことを考えると、これからの 25 年のインド経済は遥かにトランスフォーメーションな成長を遂げると見えています。

2. インドの都市化と住宅需要について

インドの人口は 2047 年に 17 億人に達すると予測しています。都市化比率は現在の 30%台半ばから 51%に上昇し、都市の人口は今から約 4 億人増えると言っています。その都市人口の急増を受けて、2 億 3000 万戸の住宅が必要になると言っています。これはインドの内需を大きく刺激しそうですね。

3. インドの不動産産業の寄与度について

下表によれば、インドの不動産市場は 2022 年の 4,770 億ドル（約 70 兆円、1 ドル=147 円）から、2047 年には 5 兆 8,330 億ドル（約 860 兆円）に成長すると予測しています。不動産セクターの GDP 寄与度は、同期間に 7.3% から 15.5%に上昇します。同セクターには関連産業が約 250 もあることから、雇用の創出にも多大な貢献をすると見ています。因みに、現在でも不動産セクターは、インドの雇用全体の 18%を担っています。



4. インドの製造業の寄与度について

地政学リスクの高まりとコロナパンデミックの教訓から、世界の企業はサプライチェーンの見直しを加速させています。加えて、インド政府の製造業振興策やインフラへの積極的な投資も、インドの製造業の未来をかつてないほど明るいものにしています。

インドの製造業の GDP 寄与度は 2022 年に 14.7%でしたが、2047 年には 31.7%まで上昇すると予測されています。インフラ不足と製造業の未発達がインド経済の弱点と指摘され続けてきましたが、2047 年にもなればその言葉を誰も口にしなくなるでしょう。その時のインドの製造業寄与度は、長く「世界の工場」と呼ばれてきた中国の現在の寄与度約 30%を上回ると見られます。

昨年、インド最大の企業であるリライアンス・インダストリーズのムケシュ・アンバニ会長は、「インドの GDP は 2047 年までに 40 兆ドルになりえる」と相当強気な見通しを語っていました。本当に後 25 年でインドの経済がアメリカをも超えるほど成長することなんてありえるのか？私は懐疑的でした。しかし、今回のレポートはその予想が、全くの夢物語でないことを裏付けているようです。

お知らせ

皆様、メールマガジンをご愛読いただきありがとうございます。早いもので、インドを色々な角度から書いてきてもう4年が経ちました。皆様の資産運用にお役に立っているでしょうか。

実はお知らせです。国際エコノミストの今井激先生の著書『2024年世界マネーの大転換』（フォレスト出版）が8月23日に発売されました。その第4章「どの角度から捉えてもやってくるインドの時代」は、先生と私との対談です。

内容は、なぜインドなのかを読みやすく纏めたものです。できましたらお手にとってご覧ください。他の専門家のご意見も新NISAが始まる2024年の準備には大変参考になります。

それでは皆様、今後ともよろしく願いいたします。





ムッシュ望月の今月の相場展望と映画紹介

映画は世につれ、世は映画につれ、世相を反映するのが相場



相場展望：乱高下は続くが底値は固い

今年の相場を見ていくと、いくつかの相場格言を思い出す。「2日新甫は荒れる」、10月2日（月曜日）は「2日新甫」に当たり、3000円の急落、2000円の急騰と市場は乱高下に揺れている。「小回り3ヵ月、大回り3年」と言われている。今年、3月、6月、9月が33000円超えでピークを付けて調整している。小回りの3ヵ月は、四半期ごとの決算発表に起因している。大回り3年は、キッチンのサイクル（在庫循環、40ヵ月）に符合している。この他にジュグラーのサイクル（設備投資循環、10年）、クズネッツのサイクル（建設循環、20年）、コンドラチェフ（技術革新、60年）がある。日本は半導体の設備投資、EVへの自動車業界の転換による設備投資が伸び出している。インバウンドにより訪日客の増加によるホテル増、政府の金融センター構想によるビジネスビル増、生成AIがブームとなり、エヌビディアを中心とする半導体の需要増、考えてみると日本は、この景気循環がピタリと当たっている時期に来ているといえよう。つまり、日本は2008年8月のバフェットの割安株買い（5大商社）から、始まり3年を経過し、割安株（商社の代表）伊藤忠は3年を経過したところで、PBRは1.5倍となり割安感はなくなくなっている。2024年3月期の予想EPSは9月末までは2070円程度だったが、10月に入り2110円（前年比4%増）と上方修正をしている。外食産業やインバウンド効果の百貨店等が上方修正された。10月末から11月初めにかけては、3月決算銘柄の発表があり、アナリストの予想では十分上方修正の可能性があるとしている。現在（10月17日現在）PERは15倍程度と割安水準にある。EPSが2110円から100円増の2210円となれば、PERが同じ15倍でも、日経平均は33300円が妥当な水準となる。2300円であれば、34500円の目標値が変わっていくことになる。市場には、新たな不安材料が浮上してはいるが、短期に収束する可能性がない訳ではない。1973年10月6日に始まった第四次中東戦争は10月23日に終わっている。今回は10月6日に始まり10月23日には終わる可能性は低いが、「歴史は繰り返す」とも。

今月の映画より：「ルー、パリで生まれた猫」

9月は15本、10月は18日までに10本の映画を見た。通算で108本なので、年間の120本（毎月10本）の目標は間違いなく実行出来そうである。9月は本当にレベルの高い作品が多かった。インド映画のパターン、こんにちは母さん、

エリザベート 1878、福田村事件、グランツーリズム、ダンサーイン Paris、ロストキング 500 年越しの運命、沈黙の戦艦が個人的に採点した 80 点以上の映画である。ダンサーイン Paris、グランツーリズム、この 2 作品を同点首位とする。10 月に入り、「ルー、パリで生まれた猫」という作品に出合った。パリで暮らす 10 歳の少女「クレム」は、母親とはぐれたキジトラの子猫に出会い、「ルー」と名を付け、一緒に暮らし始めます。クレムの両親は夫婦仲が悪く、彼女にとってのルールは、心の癒しでした。いたずら好きで好奇心旺盛なルーは、両親と訪れた森の別荘で、プチ脱走をし、別荘近くに住む偏屈な芸術家マドレーヌに保護されます。大型犬フリョ（別名ランボー）と森の中で暮らすマドレーヌは、ルーの中に眠る野生ぶりに気づいていました。両親の離婚でショックを受けるクレム、一方ルーは、雌猫との出会いがあり、クレムのもとを離れようとしません。親子関係のしこり、自立心への葛藤など、生々しい問題が、犬や猫との関係を通じて、考えさせられます。冒頭でクレムが「これは私たちの物語、二人の成長の物語」と語るように、ルーとクレムが主役のポジションにいます。猫好きの方だけでなく、何事かに一歩踏み出す勇気が欲しいかたには、ぜひ見て頂きたい作品です。



★★

23年11月以降のイカス倶楽部スケジュール

★★

- 11月01日 (水) : 15:00～花咲投資クラブ、イカス事務所
11月02日 (木) : 13:30～日比谷会投資クラブ、イカス事務所
11月14日 (火) : 16:00～サロン・ド・望月、イカス事務所
11月18日 (土) : 15:00～スペリオール投資クラブ、イカス事務所
11月30日 (木) : 15:00～東京3Eクラブ、イカス事務所 (23日休日)
12月06日 (水) : 15:00～花咲投資クラブ、イカス事務所
12月07日 (木) : 13:30～日比谷会投資クラブ、イカス事務所
12月12日 (火) : 16:00～サロン・ド・望月、イカス事務所
12月16日 (土) : 15:00～スペリオール投資クラブ、イカス事務所
12月28日 (木) : 15:00～東京3Eクラブ、イカス事務所

上記・下線のサロンは自由参加です。参加費：3000円 (消費税込み)
イカス (活かす) のイベント：

- 第21回 (コロナ再開後) カラオケ会 : 23年11月24日 (金) : 18:00～21:00
第22回 (コロナ再開後) カラオケ会 : 23年12月29日 (金) : 18:00～21:00
カラオケ会の定員は15名、参加費6500円、会場は倶楽部エル
2024年12月からは参加費が7000円となります

サロン・ド・ムッシュ望月特番 (株+) : 11月14日 (火) 16:00～18:00、イカス事務所
ゲスト：長野志津男氏 (歯科医) ドクターが教える「究極のいじめ解決法」

サロン・ド・知久 (交流会) : 参加費3000円、歩く会・特番は別料金
第33回 : 23年12月26日 (火) 14:00～16:00

講師：原真善美氏、「(仮) 東京夜間飛行からの旅立ち」、イカス事務所

第41回 : イカス冬の交流会 : 2023年12月7日 (木) 午後6時～午後9時
外国特派員協会、参加費 : 10000円、歌 : 金井優佳、ピアノ : 井上ゆかり
講師：勝池和夫氏、タタアセットアドバイザー
「インドの時代とあなたの金融資産の未来」
参加者 : 60名予定

NPO イカス：東京都港区新橋 3-16-12 横山ビル 6F

info@npo-icas.com <http://www.npo-icas.com>

★年会費等振込先：三菱 UFJ 銀行、新宿中央支店、普通 5 3 1 3 5 5 0

特定非営利活動法人イカス

★毎日 FB・ツイッター更新：望月純夫（証券歴 50 年超、ラジオ日経他等）